



小平薬川

小平ダムに注ぎ込む二級河川

小平町滝下地区にある小平ダムは高さ42.4m、総貯水容量3,322万立方メートルの多目的ダムで、ダム下流域の水害を防除するとともに、下流既得用水の補給および河川環境の保全等のための流量を確保するために建設されました。ダム本体コンクリートの打設にはベルトコンベアー打設という新工法が採用され、ダム地点の計画高水流量1000m³/sの洪水を調整する機能が施されています。また、ダム下流地区に特定かんがい用水、小平地区および達布地区に水道用水の供給も行っています。

ダム工事の着工は昭和51年(1976年)、昭和62年(1987年)にはダムに架かる滝見大橋、中記念別橋が完成、平成2年(1990年)7月11日に堤体が完成し、翌年11月に試験たん水が始まりました。完成式は平成4年(1992年)9月25日に行われ、計画から完成まで20数年に及ぶ事業が終わりを迎えました。

二級河川小平薬川を利用した小平ダムの貯水池は「おびらしべ湖」という名称の人工池として、観光スポットとしての一面も持っています。湖にかかる「滝見大橋」は湖上橋として全道一の長さを誇ります。また、ダム公園にはクビナガリュウのモニュメントなどがあり、森と湖に囲まれた空間は訪れた方々にやすらぎを与えてくれます。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



聴 小平町の語源はアイヌ語の「オピラウシペツ」o-pira-us-pet(河口に・崖・ある・川)で、町の中央を流れる小平薬川に由来しています。

触 おびらしべ湖ダム公園では「森と湖に親しむ旬間」にちなみ、「森と湖に親しむつどい」が毎年開催されています。水資源の貴重さや治山・治水の大切さをレクリエーションや見学会を通して、楽しみながら感じてもらうことを目的としたイベントになっています。

見どころ

ダムサイトの下側に広がるダム公園は、クビナガリュウのモニュメントがシンボルの憩いの広場です。ドライブ途中の休憩スポットとして、四季折々の風景に浸り、記念写真を撮るのもいいでしょう。

ポイント

おびらしべ湖に架かる滝見大橋の全長は900m。北海道にある湖上橋としては最も長い橋で、秋の紅葉シーズンのドライブルートとしてお勧めです。

■基本情報(R3.5)

水系：小平薬川
種別：二級河川
延長：61.7km
流域面積：465.2km²
貯水池名：おびらしべ湖



天狗の滝

岩肌を2段になって
水しぶきを上げる秘境の飛瀑

小平町滝下地区にあるおびらしべ湖の南西側にそびえる天狗山は、断崖の岩肌をむき出しにした標高376mの小高い山。周囲の山々からひと際高くそびえる姿が天狗の鼻のように見えたことから名前が付けられたと言われています。荒々しい岩肌を見せる断崖は落差約100mもあり、急激な造山運動による隆起によって誕生したことを表しています。

この天狗山の中腹で、岩肌に沿って水しぶきを上げる飛瀑が、景勝地として知られる天狗の滝。落差30mの滝が2段になって岩壁にぶつかり、扇状に広がって滝つぼへと流れ込む独特の形状を見せています。滝が流れる岩肌は木も苔も生えないむき出しの岩盤で、この辺りがアイヌ語で「カムイハッター（魔神の淵）」と呼ばれていたことから秘境の名瀑であることがうかがえます。

おびらしべ湖駐車公園から天狗の滝までは約3kmの遊歩道が整備されていますが、途中には上り下りの階段や険しい小道もあり、汗をぬぐいながら天狗の滝にたどり着いたときの感動はひとしおです。天狗の滝は平成5年（1993年）に日本海百選、天狗山は昭和60年（1985年）に北海道自然百選に選定され、四季折々の自然の景観を楽しませてくれます。

見どころ

天狗の滝はおびらしべ湖畔にあるおびらしべ湖駐車公園から約3km。遊歩道を30分ほど歩くと、たどり着きます。夏場は一面緑に覆われ、鳥のさえずりと風のざわめきが心地良い自然の中で、天狗の滝の水音が豪快に鳴り響いています。

ポイント

天狗の滝の岩肌には、よく見ると小さくくり抜かれた穴があり、中に仏像が祭られています。その昔、滝に打たれて難行を繰り返した若い修行者が滝の神様として祭ったものさそうで、天狗の滝もパワースポットとして注目を集める日が来るかもしれません。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴 触 味 嗅 知

聴

大天狗山滝の沢を源流にし、落差30mもあろうかと思われる豪快な流れは、2段になった岩崖にぶつかり扇状に広がって壮観です。迫力のある水音にも耳を傾けてみましょう。

知

天狗山では四季折々の豊かな自然に触れることができ、訪れる行楽客を楽しませています。
また山頂からは、天気の良い日は日本海や暑寒別岳を望むこともできます。

■ 基本情報 (R1.5)

問い合わせ：小平町経済課商工水産係/TEL0164-56-2111



天応寺の一本藤

存在感と風格漂う
樹齢百数十年の一本藤

小平町鬼鹿田代の天応寺境内にある一本藤は樹齢百数十年。一本藤は明治24年(1891年)に天応寺が建立された頃、後に2代目住職となった橋本玄真上人によって植えられ、丹精込めて育てられました。そのかいあって美しい花が咲くようになり、永く参詣の村人の心を癒してきました。

藤の花が満開を迎えるのは毎年6月中旬で、薄紫色の風情あふれる花の房は甘い香りを漂わせ、大きいものでは長さが40cmにもなるものもあります。その絢爛と見事に咲き誇る華麗な姿はいつしか広く世に知られるようになり、多くの人々が見物に訪れる花の名所となりました。

小平町の開拓の歴史とともに歩んできた一本藤は圧倒的な存在感を放ち、昭和53年(1978年)12月、小平町開基百年記念保護樹林に指定されました。一本藤を末永く保存管理し後世に伝えていくことを目的として、昭和54年(1979年)には天応寺一本藤保存会も結成され、地道な保存活動に取り組んできましたが、平成18年を最後に保存会の活動も終了し、現在は天応寺で保存活動を行っています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



満開時の一本藤は圧倒的な存在感を放ち、その姿は見るものに気品と風格を感じさせます。



見事に咲き誇る様子もさることながら、天応寺の境内にはその芳醇な甘い香りが立ち込めて、訪れる人々を楽しませてくれます。

見どころ

棚の広さは畳100畳分、花の房は40cmにもなるといい、薄紫の花の風情溢れる姿は、長い歴史を生き抜いてきた圧倒的な存在感に満ちています。

ポイント

樹齢百数十年といわれる一本藤は町民だけでなく、町外から鑑賞に訪れる人も多い花の名所です。昭和30年代には旭川から小平町鬼鹿まで、臨時列車が運行するほどの賑わいだったほどで、開花時期は写真撮影スポットとしてもお勧めです。

■ 基本情報 (R1.5)

文化財指定：小平町開基百年保護樹林
指定年月日：昭和53年12月25日
住 所：留萌郡小平町字鬼鹿田代天応寺境内
推定樹齢：約130年
TEL：0164-57-1706



るもい風土資産カード

最北の登り窯「北創窯」

住民の想いが創り上げた
道北唯一の登り窯

登り窯とは陶磁器などを大量に焼成するために、炉の内部を各間に仕切り、斜面などの地形を利用して、重力による燃焼ガスの対流を利用し、炉内を一定の高温に保つように工夫された窯のこと。焼き物の本質的な色合いや風合いを引き出すには最適で、もっとも生産効率のよい窯と言われています。しかし、建設費が高額なこともあって、北海道では札幌など5カ所にしか存在していません。そのうちのひとつが、平成10年(1998年)に完成した小平町の「北創窯」。場所は小平町市街の北を流れる小平薬川の河口近くで、付近にはゆったりかん、ゆうゆうそう等宿泊施設もあります。

北創窯の実現に尽力したのは昭和59年(1984年)に発足した留萌管内の市町村に存在する会員でつくる「留萌地方陶芸の会」。小平町のメンバーが中心となり、登り窯実現のための活動に取り組みました。その切実な願いに小平町がこたえ、道北唯一の登り窯として、北創窯がオープンしたのです。

窯の構造はレンガ造りで、煙道でつながる5部屋が並んで斜面を登る連続窯です。全長は10m、各部屋の高さは3mで、数千点もの陶芸を一度に焼くことができます。北創窯に併設されている陶工房「おびら」は木造平屋建てで、小・中学校などの団体や多くの陶芸愛好者に利用されており、個人での利用も可能です。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



一度作り出すとやめられなくなる、という奥の深い陶芸。工房内にはその世界に魅せられ、額に汗を浮かべながら粘土に触り作品作りに励む町民でいつも賑わっています。



近くにある「ゆったりかん」に併設されるレストラン「黄陽」では、小平産の「タコ」や「ホタテ」、「小平牛のハンバーグ」など地元の食材を味わうことができます。



登り窯は土・炎・灰の反応で、電気窯では出せない様々な風合いの焼き物が焼きあがり、より土の匂いが感じられる作品を創り出すことができます。

見どころ

北創窯に併設されている陶工房「おびら」は北創窯利用時の休憩仮眠室のほか、電動ロクロ、電気窯などが設置され、初心者でも気軽に陶芸が体験できます。陶芸施設運営委員会が主催する6月と10月の登り窯焼成事業に向けて、作品づくりに取り組んでいる愛好家も多いようです。

ポイント

日本国内にある登り窯では滋賀県の信楽焼、岡山県の備前焼、佐賀の唐津焼などが主な産地として知られています。道北唯一の登り窯である北創窯は、留萌地方の陶芸愛好家念願の施設として、オープン以来、数多くの作品を生み出しています。

■基本情報 (R3.5)

【陶工房「おびら」】

住 所：留萌郡小平町字小平町
T E L：0164-59-1144
使 用 料：9:00～12:00、13:00～16:00
18:00～21:00の3時間帯
(時間帯毎/200円(団体1,500円))
全日/600円(団体 4,500円)
※粘土代別途(700円/kg)



るもい風土資産カード

光明石温泉

「ゆったりかん」

美しい日本海を眺めながら
ゆったりした時間をどうぞ

都市部から訪れた人々と地元住民の交流拠点としての期待を担って、平成10年(1998年)にオープンしたのが小平町総合交流ターミナル施設「ゆったりかん」です。小平町市街の北、小平薬川の河口近くにあり、周辺には全18ホールの小平町国際パークゴルフ場をはじめ、初心者でも気軽に陶芸が楽しめる陶工房「おびら」、小平市街地を眼下に見下ろし、日本海も一望できる「小平町望洋台キャンプ場」などがあります。

「ゆったりかん」は鉄筋コンクリート3階建てで、宿泊施設(客室15室、定員最大53名)のほか、研修室2室、入浴施設、レストランなどを備えています。大浴場にあふれるお湯は「光明石(こうみょうせき)温泉」。お湯は無色透明、無味無臭で、疲労回復、神経痛、腰痛などの効果があります。お湯の性質がやわらかく、保湿性が高いのも特徴です。入浴後は肌がしっとりとして、ツルツルになることから「活性の湯」とも呼ばれています。上がり湯を使わずに、そのままタオルで軽くふき取ると、さらに効果的とされます。浴槽のほかには、サウナ、ジャグジーバスも整っています。レストランでは地元で獲れた新鮮なウニ、ホタテ、タコ、ヒラメなど季節ごとの海鮮料理や、小平産黒毛和牛使用のハンバーグなどが味わえます。野菜や山菜などの食材もほとんどが小平産を使っています。日本海を茜色に染め上げ、ゆっくりと沈む夕陽を眺めながら入浴したり、食事が楽しめるのも魅力の一つです。

五感で感じる!
風土資産の魅力



光明石温泉には大浴場の他、シャグジーバス、サウナ、休憩室があり、一日中ゆったりのんびりとした気分で入浴が楽しめます。



ウニ、ホタテ、タコ、ヒラメ、黒毛和牛、そして野菜や山菜と、食材のほとんどが小平産です。
また、特産品販売コーナーでは、小平町の特産品やお土産などを販売しています。



鮮度のよさが自慢のレストランでのお食事は外せません。地元産食材を使用した美味しそうな料理の匂いが、食欲をそそります。

見どころ

日本海に沈む美しい夕陽を眺めながら入浴したり、地元の食材を生かした食事が楽しめるのが「ゆったりかん」の魅力。吹き抜けのロビーには、タッチ式大型モニターテレビが設置され、小平町のイベントや見どころなど、さまざまな情報を知ることができます。

ポイント

光明石温泉は掘削による天然温泉ではなく、天然鉱石を利用した温泉で、この石は温泉と同様の成分を含んでいます。効能は疲労回復、美肌、保湿効果、冷え性、神経痛、痛風、リウマチ、肩こり、五十肩、腰痛、関節炎など。

■基本情報(R4.5)

住所：留萌郡小平町字小平
TEL：0164-56-9111
営業時間：10:00～22:00(日帰り入浴、受付は21:30迄)
※毎月第3火曜は休館日
入浴料：大人500円/小人300円(4歳以上小学生以下)
回数券：5,000円(11枚綴り)
入浴メンバーズカード：6ヶ月 20,000円
1年 38,000円
レストラン：営業時間 昼 11:30～14:00(Lo. 13:30)
夜 17:00～20:00(Lo. 19:30)
※R4.6.1より当面の間、夜の営業はお休み
※定休日は毎週火曜日、木曜日



るもい風土資産カード

道の駅「おびら鯨番屋」

鯨料理が楽しめるオロロン
ラインの休憩スポット

小平町字鬼鹿広富の国道232号沿いにある道の駅「おびら鯨番屋」は、札幌市と稚内市のほぼ中間に位置し、日本海オロロンラインのドライバーの休憩と観光ポイントとして知られています。敷地内には道の駅の駅舎と、日本最北端の国指定重要文化財である旧花田家番屋があります。明治から大正にかけて北海道西海岸ではニシン漁が全盛を極めており、「鯨番屋」は明治後期にニシン定置網を経営していた花田伝作氏によって建てられました。番屋は、地方から出稼ぎにきていた漁夫の生活の場でした。現在は郷土資料館に、当時のニシン漁の様子や全盛期の網元の栄華を今に伝えています。

平成8年(1996年)4月にオープンし、平成27年(2015年)4月にリニューアルした道の駅の駅舎は、鯨番屋に調和するよう古い木造風の建物に仕上げられ、特産品の販売や歴史文化保存展示ホールなどを有している「観光交流センター」、日本海の海の幸が楽しめるレストランが人気の「食材供給施設」が立ち並んでいます。「食材供給施設」の2階は団体客向けに広い板の間になっており、大人数の会食にも対応できます。毎年5月下旬には敷地内で「鯨番屋まつり」も開催され、郷土芸能や各種ゲームなどのイベントも行われ、多くの来場者でにぎわいます。国道を隔てた向かい側の海辺にある「にしん文化歴史公園」には遠い昔、小平町を訪れた探検家・松浦武四郎の銅像が設置されています。夕陽をイメージしたモニュメントには、武四郎が詠んだ短歌(西蝦夷日誌に記述)が刻まれています。日本海に沈む夕陽が美しく、撮影ポイントとしても人気があります。

見どころ

日本最北端の国指定重要文化財である旧花田家番屋は郷土資料館として、当時のニシン漁の様子や全盛期の網元の栄華を今に伝えています。毎年5月下旬には敷地内で「鯨番屋まつり」も開催され、郷土芸能や各種ゲームなどのイベントも行われています。

ポイント

日本海オロロンラインは北海道の西海岸、小樽から石狩、留萌を経て稚内まで続く約332kmの沿岸ルートで、「おびら鯨番屋」はそのほぼ中間地点にある道の駅です。日本海沿岸を走る長距離ドライブの休憩地点としても最適で、地元海の幸を求めて立ち寄る人も少なくありません。

五感で感じる！ 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

味

道の駅内には鯨料理や旬の刺身など、小平町ならではの日本海の海鮮を取り揃えたレストランがあり、日本海オロロンラインの旅の醍醐味を味わえると、ドライブ客に人気です。

嗅

明治から大正にかけて北海道西海岸でニシン漁が全盛を極めていました。国指定重要文化財である旧花田家番屋では、当時の栄華を感じることができるでしょう。

知る

「北海道」の名付け親である松浦武四郎翁は安政4年・1856年に日本海沿岸探索をした際、この地に立ち寄りました。その時に鬼鹿を詠んだ歌が資料により今も残っています。

■基本情報 (R4.6)

住 所：留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2

T E L：0164-56-1828(観光交流センター)
0164-57-1411(レストラン)

営業時間：9:00～18:00(5月～9月)

9:00～17:00(10月～4月)

レストラン 10:30～16:00(5～10月)

10:30～15:00(11～4月)

休 館 日：年末年始

レストランは毎週月曜日(1～2月休業)

※6月第3月曜～8月第2月曜まで無休



小平町の化石

愛好家により発見された
貴重な歴史的遺産たち

小平町の小平薬川流域は、アンモナイトや恐竜の化石が発掘されることで知られています。町内の地質は約1億1千万年～六千万年以前の白亜系、約3000万～200万年以前の新第三系と第四系があり、アンモナイトは白亜系の地層から数多く産出されています。小平薬川で発見されたアンモナイトは渦巻きが美しく、品種も多種にわたっていることから、道内はもちろん、全国からも研究者や化石愛好者が採集に訪れる化石スポットでもあります。

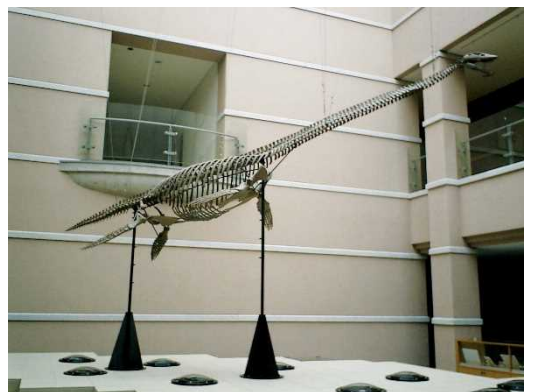
1987年(昭和62年)には、札幌在住の男性が小平薬川の上流にある更生橋の近くで動物らしい化石を発見し、町の教育委員会に届け出たところ、専門家による発掘調査が実現し、合計236個のクビナガリュウの化石が見つかりました。約8500万年前の白亜紀後期の上部蝦夷群地層から発見されたクビナガリュウの化石は福島県いわき市、北海道穂別町に次ぐ国内3種目となるもので、その後、香川大学によって復元保存されています。

ほかにも、1991年(平成3年)には旭川市の男性が発見した骨が、鑑定の結果、カモハシリュウという恐竜の化石であることがわかり、北海道初の発見として話題となりました。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



新第三系の地層がある小幌子川流域ではスロドケウィッチホタテという冷たい海で生活するホタテガイが発見され、今から1100～1300万年前ごろの「小平」は、オホーツク海とつながる冷たい海の中であったことがわかりました。



見どころ

小平ダムの公園には等身大のクビナガリュウのモニュメント等があり、また、令和2年(2020年)には、これまで小平ダムに設置されていた等身大のカモハシリュウのモニュメントが、小平町総合交流ターミナル施設「ゆったりかん」前の「おびまる広場」に移設され、いずれも化石の町のシンボルとなっています。クビナガリュウの全身骨格模型、アンモナイトなどの化石類は、小平町文化交流センターで見学することができます。

ポイント

恐竜の化石が北海道で発見されたのは小平町が初めて。カモハシリュウは中生代白亜紀に生息していた体長数メートルの恐竜で、小平町で発見される化石は太古の地球の研究に大いに役立っているのです。

■基本情報 (R3.5)

地質時代：中生代白亜紀
発見地域：北海道小平町

【小平町文化交流センター】

住 所：留萌郡小平町字小平町356番地の2

T E L：0164-56-9500

休 館 日：年末年始

公開時間：9:00～22:00

観 覧 料：無料



るもい風土資産カード

鯨 番 屋

(旧花田家番屋)

鯨文化を今に伝える
日本最北の国指定重要文化財

日本最北端の国指定重要文化財として、現存する鯨番屋では最大規模の建物とされる「旧花田家番屋」。小平町鬼鹿の国道232号沿いに建ち、道の駅「おびら鯨番屋」が隣接しています。木造平屋（一部2階）の寄棟造（玄関は入母屋造）で、建物面積は約906㎡。玄関を入り、中央の土間から左側には親方の住居（帳場・茶の間・客間など）、右側は漁夫たちの生活空間、突き当りには広い炊事場が配置されています。建物に使われている木材はすべて地元大楸の山から切り出し、三半船で海上を運び、木挽の手によって製材されたもので、木材を惜しみなく使った豪壮な造りは圧巻そのもの。この貴重な古民家建築物を後世に伝えるため、小平町では昭和46年（1971年）に建物を買収し、3年の歳月と約1億9000万円の費用を投じて、解体修復を実施、平成15年度にも大規模改修工事を行いました。解体調査の結果、創立は明治38年頃とされ、周囲には船倉、米蔵、網倉など100棟以上の付属施設が建ち並んでいたそうです。

花田家の先祖は安芸の国の人と言われ、二代伝七の頃より北海道にわたり、鯨漁を始めました。その後、テントカリ（現在の小平町広富）に移って本格的に鯨漁場を経営したのは三代伝七の次男、伝作で、最盛期には18ヶ統の鯨定置網を経営。雇っていた漁夫は500人を超え、番屋にはこのうち5ヶ統の漁夫の外船大工や鍛冶職、屋根職など総勢200人を収容していました。漁夫の寝台（ねだい）を2階に備えて3段とするなど機能性、合理性に富んだ構造には一部、洋風も取り入れるなど興味深い造りとなっています。

見どころ

現存する鯨番屋では道内最大級の旧花田家番屋は間口39.90m、奥行22.722mで、広い板敷きの居間には3つの囲炉裏が切られています。太い柱や欄間の透かし彫り、色ガラスをはめた洋風便所など、和洋折衷の装飾は見どころにあふれています。

ポイント

旧花田家番屋は道の駅おびら鯨番屋の敷地内にあり、国道を挟んだ向かい側にはにしん文化歴史公園があります。公園には小平町を訪れた探検家・松浦武四郎の銅像があり、日本海に沈む夕陽の撮影スポットとしても人気を集めています。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



旧花田家番屋の前に建つ「モッコを背負う女」像は彫刻家尾崎英道氏の作品。東京で暮らす小平町出身の東京鬼鹿会が平成10年9月に寄贈したもので、ニンシで群れるふるさとの情景を忘れられない人々の思いが込められています。



道の駅おびら鯨番屋のレストランではにしんの三平汁やにしんそばなど、地元の郷土料理が味わえます。海産物加工品や特産品の販売コーナーもあり、ドライブ途中の休憩ポイントとして多くの観光客でにぎわっています。



毎年5月の最終日曜日には鯨番屋の前庭を会場に、春の一大イベント「鯨番屋まつり」が開催されます。地元の若者が作り上げた太鼓「麓籠」が鳴り響き、沖揚げ音頭や鬼鹿松前神楽の舞などが披露されるほか、グルメコーナーもあり、道内外からの来場者で賑わいを見せています。

■基本情報 (R3.5)

文化財指定：重要文化財
指定年月日：昭和46年12月28日
住 所：留萌郡小平町字鬼鹿広富35番地の2
T E L：0164-57-1411
営業時間：8:00～17:00(5～10月)
9:00～16:00(11～4月)
休 館 日：毎週月曜日
(6月第3月曜～8月第2月曜まで無休)
観 覧 料：大人400円小人150円
20人以上の団体250円